

2015. 7. 11

第103回アブダクション研究会開催のご案内

アブダクション研究会

世話人 福永 征夫

TEL & FAX 0774-65-5382

E-mail : jrfd117@ybb.ne.jp

事務局 岩下 幸功

TEL & FAX 042-35-3810

E-mail : chaino@cf6.so-net.ne.jp

■ホームページ■

<http://abductionri.jimdo.com/>

第103回アブダクション研究会の開催について、下記の通りご案内を申し上げます。

(1) 第102回アブダクション研究会のご報告をします。

2015・5・31（日）に開催致しました、前回の第102回アブダクション研究会では、『江上不二夫が探る生命化学とその後の発展』というテーマの下に、帝京大学名誉教授の 笠井 献一 先生 に特別なご講演をいただきました。

基礎科学に関わる今後の学術のあり方や研究者の育成に関する、すぐれた示唆と深い含蓄に富むお話をしていただきました笠井献一先生に対して、心より感謝とお礼を申し上げます。

当日は、初めての会場である文京区男女平等センターに、新たな会員を含む多様な分野の多数の皆様にお集まりをいただきました。

本会、懇親会ともに活発な発言が続き、盛況裡に、それぞれに有意義な意見交換をしていただくことができました。

ご出席の皆様にご挨拶とお礼を申し上げます。

ところで、世話人は、この第102回アブダクション研究会を終えてから、時を置かずに、このテーマのレポートの取りまとめに鋭意取り組んでいるのですが、テーマの重要性と大きさの故に、相当の時間と労力を要しています。

第1部：江上不二夫が探る生命化学 第2部：その後の生命化学の発展

の2部構成からなる、このレポートの取りまとめには、今しばらくの作業を積み重ねなければなりません。

つきましては、取りまとめの作業を終了次第、この案内状を差し替える形で、再度、新案内状を配信することにいたしますので、ご了解ください。

(2) アブダクション研究会は本年12月に創設20周年を迎えます。

今年は歩んできた道を踏みしめ、次なる30周年に向けて、新たなステージの夢と展望を描いて共有し、気持ちも新たに有意義なスタートを切ってまいりたいと存じています。

(3) 各界、各分野の皆様のご参加をお願いします。

既存の領域的な知識をベースにして、新たな領域的な知識を探索し、それらを広域的な知識に組み換えて、より高次の領域的な知識を仮説形式的に創造することを目標に、アブダクション研究の飛躍を期してまいりますので、各界、各分野、各層の皆様のご参加をお願いします。

(4) アブダクション研究会は、知識の広域化と高次化を目指し進化を続けてまいります。

1996年に設立されたアブダクション研究会は、地球規模の難題に真正面から対処するために、知識の広域化と高次化を目指し、いつまでも、真摯に、勇気を持って、粘り強く、積極的に、可能性を追求し、多様な探究を積み重ねて、一步一步進化を続けてまいります。

(5) 発表をしてみたいテーマのご希望があれば、世話人宛に、積極的にお申し出下さい。

皆様には、今後、ぜひとも発表をしてみたいテーマのご希望があれば、世話人宛に積極的にお申し出をいただきたく、お願いを申し上げます。お申し出は、通年のいつでも、お受け入れをいたします。上記の方向に沿うものなら、いかなる領域に属するいかなるテーマであっても、将来の可能性として、誠意を持って相談をさせていただき、実現に向けて調整を果たす所存であります。

記

◇ 日時： 2015年7月25日(土) 13:00~17:00(本会)
17:15~19:15(懇親会)

◇ 場所： 3331 Arts Chiyoda 地階・会議室

〒101-0021 東京都千代田区外神田6丁目11-14 (旧・練成中学校内)

TEL 03-6803-2441 (代表)

東京メトロ・銀座線 末広町下車④出口 徒歩10分 練成公園隣の旧・練成中学校内です。

* 当日の連絡先(福永征夫・携帯電話)080-3515-9184



◇ テーマ：

『人間は環境の厳しい変化に
柔軟に適應する能力をいかに発展させるか』

アブダクション研究会世話人
福永征夫

世話人が皆様にお話を申し上げるのは、3年振り位になりますが、できれば皆様のご研究や日常生活のお役に立てるように、‘人間の能力の発展’に関する本質的な部分を、できるだけ興味深く、柔らかいトーンでお話し申し上げ、有意義な会話に努めたいと存じていますので、多数の皆様の積極的なご参加をお願いします。

(1) 地球環境問題、資源・エネルギーの枯渇、災害や事故の巨大化、貧富の差の拡大、難病の発生、内外の対立と争いの激化など、21世紀に生きるわれわれが直面する地球規模の難題群に主体的かつ能動的に対処するためには、人間の営みのパラダイムを自然の系とよりよく適合するものに転換して行かなければならない。

(2) 自然の系と適合するための条件は、人間の認知と思考や行動に、部分／全体、深さ／広がり、斥け合う／引き合う、競争／協調、という一見矛盾し二項対立する相補的 (complementary) なベクトルの間に融合という臨界性 (criticality) を実現していくことであろう。

(3) この条件が満たされなければ、人間が自然の系の動的かつ循環的な性質を理解することはできないばかりではなく、変化し変動する自然や生存環境の中であって、永続的な進化と生存を続けることはできないことになるかも知れないだろうと考えられる。

◇皆様をお願いします◇

【第103回 アブダクション研究会の出欠連絡について】

●7/20(月)までに、下記の要領で、必ず、ご返信ください。

●研究会、懇親会とも、必ず、下記により、ご連絡ください。

新会場のため、研究会、懇親会とも、より綿密な準備が必要なことを、何卒、ご理解ください。

●たとえば、懇親会の軽食・飲み物は、世話人が、午前中に、物品と数を決めて、確定注文を出し、17時に届けてもらえるように、手配をする必要があります。

◇プログラム：

- | | |
|--------------------|-------------|
| (1) 研究発表[PART-1] | 13:00~14:30 |
| <小休止> | 14:30~14:35 |
| (2) 研究発表[PART-2] | 14:35~16:05 |
| <小休止> | 16:05~16:10 |
| (3) 総合的な質疑応答： | 16:10~16:55 |

- (4) 諸連絡： 16:55~17:00
 (5) 懇親会：〈皆様の積極的なご参加を期待しています〉 17:15~19:15

第103回 アブダクション研究会（7/25）の出欠連絡

- 7/20（月）までに、必ず、ご返信ください。
- 研究会、懇親会とも、必ず、下記により、ご連絡ください。
 新会場のため、研究会、懇親会とも、より綿密な準備が必要なことを、何卒、ご理解ください。

FA X： 042-356-3810
 E-mail： chaino@cf6.so-net.ne.jp 岩下 幸功 行

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 出席 | 出席 |
| ●7/25（土）の研究会に、未定ですが調整 します。 | ●懇親会に、未定ですが調整 します。 |
| 欠 席 | 欠 席 |

ご署名 _____

■次々回 2015 年9月度の第104回アブダクション研究会は、
2015 年9月26日（土）または9月27日（日）に開催する方向で、現在、会場の確保に当たろうとしています。

8月の第1週には、決定して、ご連絡を申し上げますので、ご理解ください。

■2015年9月度のテーマは、次の通りです。

テーマ：『輪読研究：《思考の飛躍—アインシュタインの頭脳—》に学ぶ』
 教科書：吉田伸夫著「思考の飛躍」（2010・新潮社）

■輪読研究の担当区分を次のようにいたします。

- (1) はじめに+第1章〈動くことと動かないこと—特殊相対論〉
 担当 世話人 福永 征夫

- (2) 第2章〈四次元幾何学の饗宴・・・一般相対論〉
担当 安平 哲太郎 氏
- (3) 第3章〈熱の背後に原子を見る－ブラウン運動〉
担当 八尾 徹 氏
- (4) 第4章〈光の統計力学を求めて－量子論〉
大河原 敏男 氏
- (5) 第5章〈終わりなき論争－量子力学批判〉＋終章〈見果てぬ夢－統一場の理論〉
担当 世話人 福永 征夫

■皆様には、大いにご期待をいただき、奮ってご参加ください。

< 定例アンケート調査 >

もしご協力がいただければ、という趣旨であり、必須ではありません。

皆様のメッセージ集として他の会員にも伝達しますので、情報の交流に積極的に参画下さい。

- (1) 今、アブダクションの研究・実践と関連のある事項で特に興味をもって取り組んでおられること。
 - (2) 研究会の議論の場を通して INTERSECTIONAL なアイデアや知見の INCUBATION が進んでおり、例会で発表したいと思っておられること。
 - (3) これまで（第1回～第102回）の研究発表やなされた議論（「議事録」を参照下さい）に関して、さらに改めて質疑や意見を表明したいと考えておられること
 - (4) アブダクションの観点から、注目すべき人・研究グループ・著書（古今東西不問）。
 - (5) 細分化された「知」の再構築を図るという視点から、注目すべき人・研究グループ・著書（古今東西不問）。
 - (6) 貴方ご自身がお考えになられている「知」の定義とは？
 - (7) その他のご意見、ご要望、連絡事項など。
- 特に他学会・研究会での発表内容や発表論文等についても是非お知らせ下さい。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....
